



神秘の湖 十和田湖



おいらせ
奥入瀬溪流

H24年度 在宅医療連携拠点事業 成果報告

十和田市立中央病院

(平成25年4月31日 仮版)

青森県十和田市 / 十和田市立中央病院の概要



【上十三圏域の中核的病院】

病床数：379床

(一般325床、精神50床、感染4床)

平均在院日数：13.0日

DPC対象病院・救急指定病院

地域がん診療連携拠点病院

上十三地域リハビリテーション広域支援センター

災害拠点病院

平成25年2月末

十和田B級ご当地グルメ
十和田バラ焼き

総人口：65,138人

(男：31,241人女：33,789人)

世帯数：27,083世帯

高齢化率：25.8%

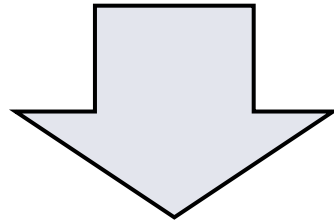
医療資源(病院・診療所・歯科) 67施設

福祉資源(福祉施設) 47施設

事業の目的と当事業所の目指す方向

【事業の目的】

- ▶ 地域の多職種協働による在宅医療の支援体制を構築し、地域における包括的かつ継続的な在宅医療の提供を目指す



【当事業所の目指す方向】

- ▶ 当事業所では特に、看取りを伴う在宅医療の普及を図るため、(病院死から在宅死へ) **「地域に看取りをもどす」** ことにより、「住み慣れた場所でその人らしく、最期まで安心して生活できる地域創り」を目指す

在宅医療連携の課題

①多職種連携の課題・解決策の抽出

- 患者、家族、医療介護従事者の「在宅医療に関する情報・知識不足」
- 医療職、介護福祉職と壁のない関係を築くための意見交換の場が不足

②在宅医療従事者の負担軽減の支援

- 在宅看取りを行う医師が不足
- 在宅支援をする多職種間での患者情報を共有できる体制の充実に図る

③効率的な医療提供のための多職種連携

- 包括支援センターとの連携による福祉介護従事者への支援不足
- 多職種への在宅医療の普及啓発
- 地域の医療・福祉資源の把握

④在宅医療に関する地域住民への普及啓発

- 在宅医療に対する様々な不安
- 在宅医療に関する理解不足

実際の取り組みとその効果

～①多職種連携の課題・解決策の抽出～

○多職種合同の会議とグループワークを開催

⇒課題を抽出した結果、在宅医療に関する情報不足・理解不足などを、医療と介護の従事者がお互いに確認できた

- ・看取りの知識や看取り経験がない事への不安
- ・従事者同士の顔が見えない、コミュニケーション不足、医療者側に遠慮して聞きづらい等

⇒会議などの意見交換の機会が増えたことで、医療と介護従事者がお互いの職種の専門性を理解し、顔の見える関係づくりができた

○多職種研修会の開催

(緩和ケア、褥瘡、リンパ浮腫、口腔ケア・嚥下、在宅リハビリ・薬剤等)

⇒当事業所のケアマネ看護師・MSW・歯科衛生士等が、多職種向けの研修会を企画・開催し、従事者の在宅医療の知識習得につなげた



実際の取り組みとその効果

～②在宅医療従事者の負担軽減の支援～

▶ 24時間対応の訪問看護との連携

⇒訪問診療する医師の負担を軽減し、24時間対応の在宅医療を提供

▶ 十和田地域緩和ケア支援ネットワークによる支援

⇒訪問診療する医師や従事者の負担を軽減するため、地域の医療介護資源(訪問看護・ケアマネ・調剤薬局等)を活用し、お互いの機能を補完したネットワークを構築している

▶ 在宅支援をする多職種間での情報共有体制の充実

⇒情報共有システムで患者情報の共有を図り、家族の介護疲れなどの状況を把握した場合にレスパイトにつなげている

▶ 地域連携パスの運用(脳卒中パス)

⇒急性期から回復・維持期へ継続したリハ等を行うため情報を共有



実際の取り組みとその効果

～③効率的な医療提供のための多職種連携～

- ▶ **地域包括支援センターとの連携による支援(アウトリーチ)**
 - ⇒ 居宅介護支援事業所代表者会議へ出席し、在宅医療の取り組みについて情報共有と医療的支援・助言をした
- ▶ **出前講座(アウトリーチ)**
 - ⇒ 福祉機関等に出向き、在宅医療の普及啓発の講演や意見交換した
- ▶ **地域の医療・福祉の資源マップ作成**
 - ⇒ 資源情報の把握、在宅医療の提供可能な施設の情報を提供した
- ▶ **ケアマネ看護師・MSWが訪問診療等に関する相談について対応**
 - ⇒ 訪問診療の相談・依頼を受け、多職種との連絡調整をした
 - ⇒ 在宅移行へ向けての退院調整・支援をした
- ▶ **歯科衛生士の在宅医療(口腔ケア)に関する相談対応や指導**
 - ⇒ 入院中から在宅移行後も継続した口腔ケアができるよう患者・家族へ説明、指導した。(口腔ケアラウンド・訪問診療同行)

実際の取り組みとその効果

～④在宅医療に関する地域住民への普及啓発～

▶ 市民講演会・出前講座の開催

⇒看取りを含めた在宅医療への理解が広がった

（市民講演会後のアンケート調査では、8割以上の方が「人生の参考になる」、6割以上の方が「家族の見取りの場として、自宅はふさわしいと思う」と回答）

▶ 地域医療講演会の開催

⇒主治医（かかりつけ医）を持つことの必要性や役割についての講演を開催したことで、在宅医療の普及を図った

▶ 在宅医療を地域に浸透させるための小冊子配布

⇒講演会にて小冊子「あなたの家へかえろう」を配布したことで、地域住民への在宅医療の普及を図った



実際の取り組みとその効果

～⑤在宅医療に従事する人材育成～

▶ 都道府県リーダー研修会を受講

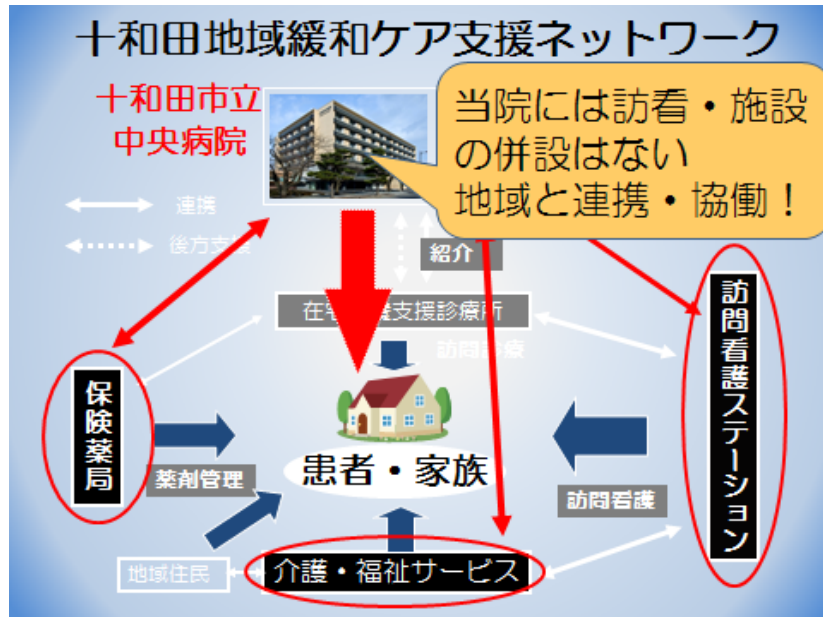
⇒当事業所の医師が「都道府県リーダー」として研修会を受講した

(地域リーダー研修の指導者としての役割を担う)

▶ 地域リーダー研修会開催への協力

⇒多職種協働による在宅チーム医療を担う人材育成の一環として県内で開催される「地域リーダー研修会」へ講師として協力した(平成25年3月24日に開催)

特徴的・効果的活動の取り組み



- ▶ 地域中核(急性期)病院が連携拠点
- ▶ 在宅看取りを前提とした、在宅医療モデル
- ▶ がん・非がんを問わず、死期が近いと見込まれる利用者が訪問診療の対象

○医療資源が乏しい地域のため、限られた地域の医療・介護福祉資源を活用し、また教育啓発することで、継続的な看取りを伴う在宅医療を提供していく

○在宅支援を、生活支援(ケアマネ・介護職員等)と医療支援(訪看・保険薬局・医師等)の2つのチームに分け、専門性を生かしたケアをする

急性期病院である当院が、訪問診療・看取りを実施している。

特徴的・効果的活動の取り組み(結果)

十和田市立中央病院 在宅看取り数

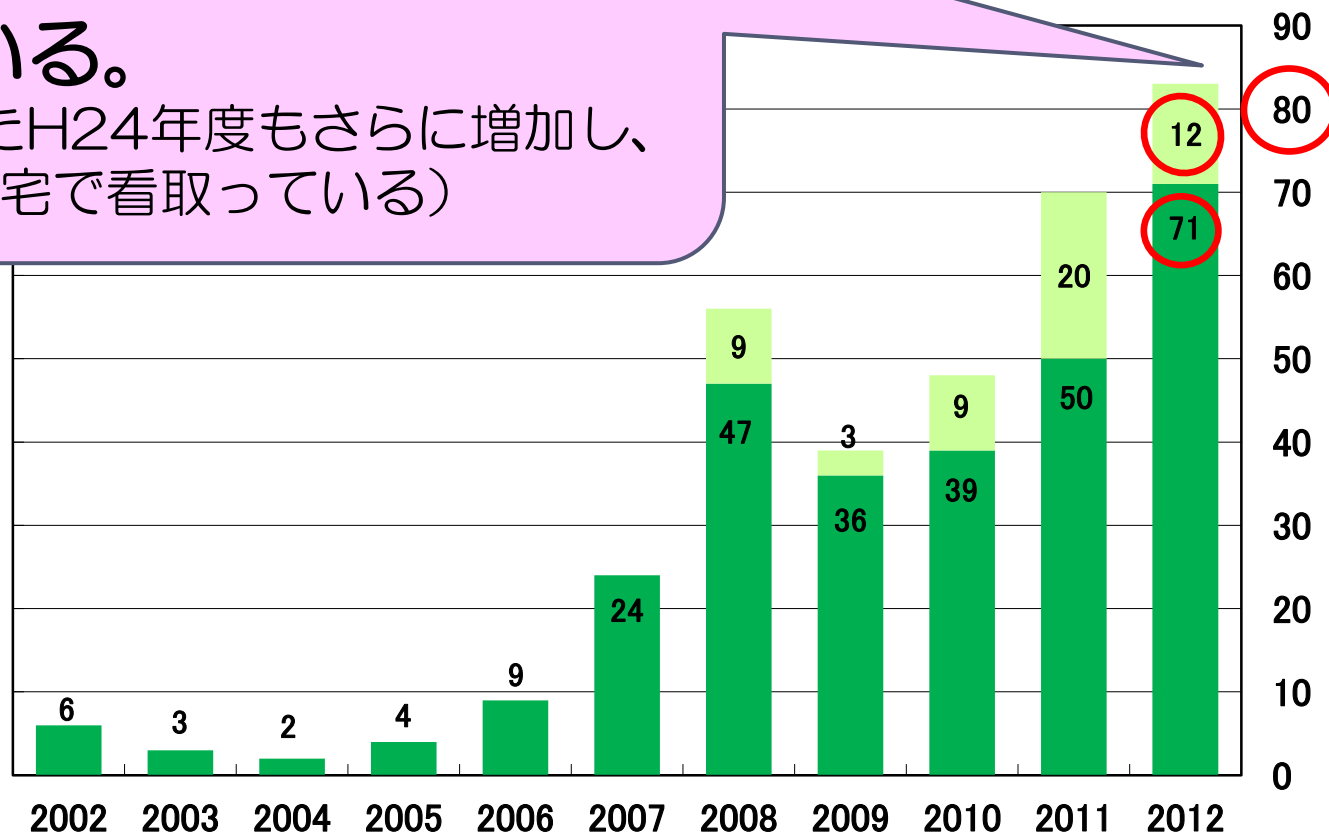
在宅での看取り件数は
増加している。

(事業を行ったH24年度もさらに増加し、
約80名を在宅で看取っている)

がん死亡



非がん死亡



まとめ

(苦勞した点・上手くいかなかった点)

- ▶ 研修会や市民講演会の開催により、医療・介護従事者や住民へ在宅医療の普及を努めたが、浸透が不十分
⇒今後、さらに在宅医療を地域に浸透させ、地域に根づかせるためには、研修会や普及啓発活動をこれからも**継続していくことが重要である**
- ▶ 当事業所においては訪問看護師やケアマネ等と、当事業所医師とで24時間対応の在宅医療提供体制を構築をしている
⇒次のステップとして、この構築された支援ネットワークにより開業医をバックアップすることで、**在宅医療への参入促進**を図り、医療資源の乏しい地域の特性を活かした**面展開**を目指す

